学校番号	３１２

令和２年度　芸術科〔美術〕

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	美術Ⅱ　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

与えられたテーマ、自己設定のテーマに沿って制作していく上での難しさと面白さを体験して、創造する事の醍醐味を学習します。
多様な美術について、自分なりの感じ方や表現を深めていく。
歴史的財産としての美術を「鑑賞」し、現代を表現する手がかりとする。
特に、二年次では「自由制作」が中心課題となります。自由な発想で各自、自分の制作したいものにチャレンジして欲しいと思います。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
自らの制作テーマを決め、それを具体化していく難しさと造形活動の面白さを体感する。
グループ制作も出来る「自由制作」では思い出に残る制作を期待します。
準備、制作、片付け、掃除、次回の準備等の流れを身体で覚えていく。（特にグループ制作は友達と相談して準備をしっかりとする必要があります。）

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造的活動の難しさや面白さを経験する。美術の多様な表現方法や、特に日本美術の特色に関心を持ち、主体的に創作活動に取り組もうとする。	感情や想像力を働かせて、感じたことや考えたことから、自らのテーマを生成練磨し、より創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技術を身につけ、内容に応じて表現方法を工夫している。	表現された作品のアイデアや視覚的魅力を理解し、作品を通して作者と対話をする鑑賞力を養う。
評価方法	. 作品 制作態度	. 作品 ・制作態度	. 作品 ・制作態度	. 作品 ・鑑賞態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	鉛筆表現	.模写（写真） 写真の鉛筆模写練習。	○	○	○	○	a:グリッド線による正確な写真模写について関心を持って理解し、リアルに表現されている。 b:客観的な判断による表現がなされてる。 c:辛抱強く写真をよく観察して、技術を磨いているか。 d:油彩写実表現やカメラの歴史を学習し、理論をよく理解している。	作品 制作態度 鑑賞態度
一学期	油絵模写	.B6サイズ、キャンバスボードに、自分の思い出の写真を油彩模写。	○	○	○		a:リアルな写実表現に関心を持ち意欲的に制作している。 b:客観的な判断による表現がなされている。 c:写真そっくりに描く技術を身に付けようと努力している。 微妙な色彩の混色に留意している。	作品 制作態度
二学期	油絵混合技法「東北へのエール」粘土オブジェ	.東日本大震災およびそれ以降の災害などで、被災された地域、人々への油絵混合技法作品による高校生の応援歌。 総称して「東北へのエール」。 .現代美術作家、大竹伸朗氏の制作ヴィデオを鑑賞。ミクストディアについて学習する。 .壁掛け粘土オブジェ制作	○	○	○		a:風化していく記憶を、常に関心を持って再構築し、作品にしようと努力している。 b:油彩表現を基本としながらも混合技法の魅力と可能性を考えながら制作している。 c:色彩や構成を工夫しながら、メッセージをいかに強く伝える事が出来るのか、技術の練磨を欠かさないでいる。	作品 制作態度

二学期	自由制作	.自分や自分達のグループで作りたいものを、材料からすべて準備をして制作する。制作内容は無限大。 .案を練って考え、準備をし、制作していく創作活動の難しさと醍醐味を経験する。山本高校美術選択者のハイライト的制作である。 .十人いれば十通りの正解がある造形世界の魅力を体験する。	○	○	○	○	a:修了制作となる「自由制作」に、何を作るか好奇心を持ち意欲的にチャレンジしている。 b:どんな表現であれオリジナルのものを思考し、制作しようとしている。 c:ミクストメディアの技法に、魅力と可能性に持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。 d:現代作家の作品や制作スタイルを理解し、参考にしながらも、自分の創作をしようとしている。	作品 制作態度 鑑賞態度
三学期	自由制作	.準備、片付け、掃除に力点を置いている。 たとえ少し未完成であっても、制作態度、内容が充実しておれば、高い評価をつける。 .「もの作り日本」をソフト面で支える「美術」についても、制作しながら考える授業である。	○	○	○		a:一人でも、友達と一緒に制作するもよし。思い出に残る制作に励んでいる。 b:行き詰まったら、そのつど判断しなければならない。常に妥協せずに考えながら制作している。 c:最初は上手くいかなくても、技術の向上を目指して努力している。 d:友達の作品を鑑賞し、相互理解のきっかけにしている。	作品 制作態度 鑑賞態度

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。